Kwansei Gakuin University

Policy Topics

「地域から発信しよう！～元気な名古屋のデジタル・コンテンツ事例」[1]

Creating Digital Contents for the Activation of Local Cultures: A case study on the contents production of Nagoya City and Aichi Prefecture

赤崎　まき子[2]

Makiko Akasaki

関西学院大学の卒業生で、現在デジタル・コンテンツ制作会社を経営され、名古屋を中心とした地域の情報発信をしておられる赤崎まき子氏から後輩に向けて熱意のこもった講演をいただいた。一般的に「マルチ・メディア」と言えば、技術面から語られることが多い。しかし、優れたコンテンツがなければメディアが存在しても意味がない。そうした意味で、メディア技術とコンテンツとしての地域情報を結びつける地域発信型のデジタル・コンテンツ制作に携わってこられた赤崎氏の講演は、メディアに興味のある学生だけではなく、地域に根ざした活動を考えている学生にとっても、新鮮で刺激に富んだものとなった。以下、その要旨を報告する。

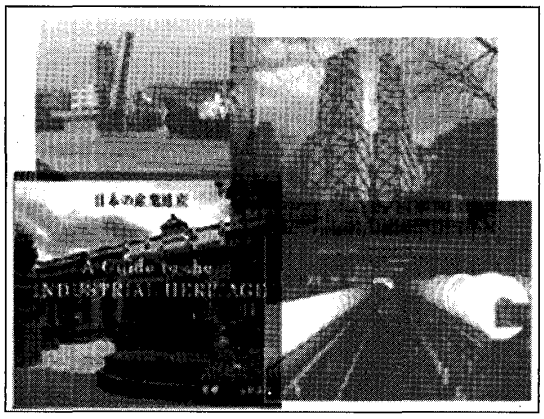
15年前、起業した時点では「コンテンツ」という言葉すら業界にはなく、当時の制作プロダクションは、観光ガイドブックなどの印刷物を中心とするアナログ技術による制作プロダクションであった。そのため、コンテンツ制作におけるアナログ技術からデジタル技術への移行は試行錯誤の連続であった。

コンテンツ制作におけるデジタル技術への対応は、それまでの制作技術をアナログからデジタル技術へと「転換する」といった生易しいものではなく、デジタル技術を前提としたデジタル・コンテンツ制作プロダクションへの「第二の創業」であった。そうした試行錯誤が実を結び、企業のWebサイト制作、カーナビソフトの観光情報データベース制作、交通情報データベースの研究開発の一分野であるITS(Intelligent Transport Systems)の実験開発への参加など、現在のデジタル技術によるコンテンツ制作事業に繋がって行った。

現在、多くのデジタル・コンテンツ制作を手掛けているが、とくに力を傾けている分野が、「産業の集積地」である中部エリアの産業遺産の活用事業、「ものづくり文化」を集客の資源として観光と結びつける産業観光、「もの

[1] 本稿は、2006年6月12日(月)に行われた総合政策学部講演会における講演の報告である。

[2] 株式会社エイ・ワークス代表取締役



産業遺産データベース

産業遺産ナビゲーター

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

づくり文化と出会う観光」である。

宝塚市で生まれ阪神間で育った同氏が、現在、活動の中心となっている中部地区(愛知県や名古屋周辺)に対してかつて抱いていた「文化のかけらもない街」というような印象は、20年間の名古屋生活の中で、大きく変化した。それまで知らなかった豊かな歴史と文化に触れ、「名古屋に来てよかった」という印象に変わっていった。しかし、中部地区の人々は、自分たちの文化や産業の長所や優れた特徴を外部に発信したいという強い意欲が不足しているように思える。また、意外にも地元の人々でさえも地域の良さを知らない人が多い。

豊かな地域の文化もそれに伴う情報発信がなければ、地域外の人々だけでなく地元の人々でさえ、その優れた特徴に気づかない。こうした体験が、地域にこだわった地域発信型のデジタル・コンテンツづくりのモチベーションとなった。

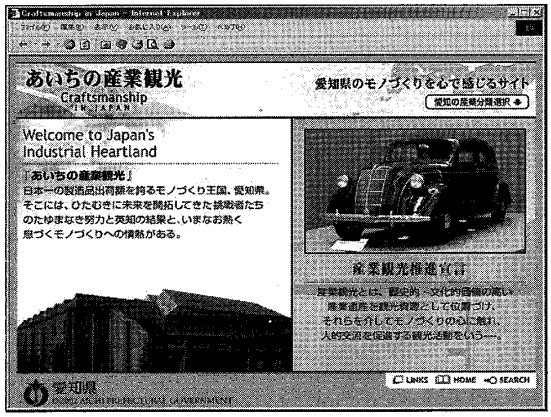
名古屋にこだわった地域発信型のコンテンツ制作を実際に行ってきた過程で実感されることは、地域の文化がメディア・コンテンツになること(コンテンツ化)によって、地域を訪れる人々に情報が伝達されるだけではなく、それが地元の人々自身にとっても地域を「再発見」することに繋がっていくことである。重要なのは、メディアのコンテンツが現実世界を動かし、情報発信が地域に新しい動きを生みだすというメディアの力を再認識することである。

地域コンテンツ制作の魅力とは、そうしたコンテンツ化によって、地域が活性化することにある。地域に隠れているもの(=宝物)を掘り起こし、磨き上げ、発信することが何よりも大切である。そうしなければ、地域の価値を人々に気付かせることはできない。そして、ソフトパワーとしてのコンテンツが、急速に進化する情報技術(IT)と協奏することによって、質的にも量的にも等比級数的に拡充され、世界中を駆け巡る。そうした戦略をはっきりと自覚しながら、地域を見直し、発信することが地域コンテンツ制作に求められているのである。

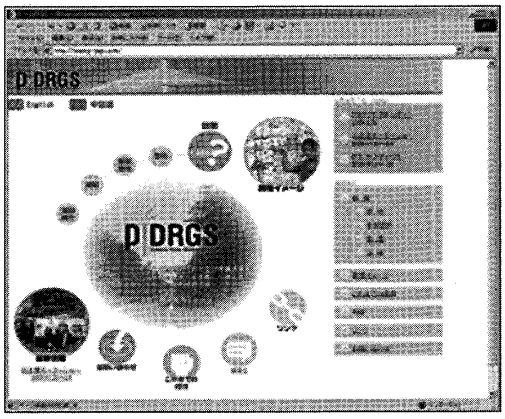
技術としてのメディアは、熱い思いのこもったコンテンツとの結びつきによって、現実世界に反映し、情報発信が地域に新しい動きを生みだす、そうした観点から地域そしてメディアを考えるきっかけとなれば幸いである。地域を愛する者こそが、地域情報を発信できるのであり、しなければならないのである。

赤崎氏は、以上の点を後輩たちに強調し、講演を終えた。講演会場では、メディア・コンテンツ制作に関心の高い学生やIT系企業への就職を考える学生、また、自ら起業する意欲をもつ学生など、多くの学生たちが熱心に同氏の講演を静聴していた。

(報告　山中速人
関西学院大学総合政策学部　教授)



あいちの産業観光



プローブ情報研究開発

NII-Electronic Library Service